



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	創刊の辞
Author(s)	栗生澤, 猛夫
Citation	北方人文研究, 1
Issue Date	2008-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34534
Type	editorial
File Information	soukan1.pdf



創刊の辞

北海道大学大学院文学研究科はこのたび『北方人文研究』を創刊することとなった。

昭和41年、北海道大学文学部は、戦前から本学にあった「北方文化研究室」と昭和39年に文学部内に発足した「ユーラシア文化研究室」を合体させて「北方文化研究施設」を設置し、北方地域に関する考古学、文化人類学、言語学などの研究を推進する態勢を整えた。「ユーラシア文化研究室」は昭和40年に「ユーラシア文化研究」を発刊し、同誌は昭和42年から『北方文化研究』と改称して、平成7年までに全22号を刊行した。同平成7年「北方文化研究施設」は廃止され、『北方文化研究』も廃刊となった。同年「北方文化論講座」が新たに設置され、学部学生、大学院学生の教育を行うことになった。

文学部は、平成12年大学院重点化とともに文学研究科となったが、その後国立大学が法人化されたこともあり、文学研究科はこれまで以上に独自色を打ち出す必要に迫られている。北方研究が本研究科の特色の一つであることは言うまでもない。本研究科は、平成18年度から重点的研究領域を研究科として創出するために始めた「特色ある研究教育プロジェクト」の最初の企画として、津曲敏郎教授をリーダーとする研究科内の10名の教員から構成される「北方研究の構築と展開」プロジェクトを採択し、特別に研究費を配分した。同プロジェクトは公開シンポジウムを開催するなど精力的に活動し、その延長線上に本年度研究科内に研究拠点として「北方研究教育センター」が設置された。同センターに対してはその後全学運用教員枠から任期付助教1名が措置されている。そしてこのたび本誌を創刊する運びとなったのである。北方研究を改めて推進する基盤は築かれたといえる。

私どもは本誌を単なる『北方文化研究』の後継誌にとらえているわけではない。同誌はすぐれた学術誌であったと考えているけれども、同誌が廃刊となってすでに十余年を経過している。その間、これまでの北海道大学における、とりわけ戦前の北方研究には、必ずしもすべてを肯定し引き継ぐわけにはいかない側面のあることも、明らかになっている。私どもはより普遍的な立場を求め、新たな地平を切り開きつつ、本誌を創り上げて行きたいと考えている。

本誌の創刊は誠に喜ばしい。しかし責任もまた誠に大きい。本誌が本研究科の北方研究をさらに進展させ、我が国また世界の学界に大きな貢献をなす媒体となることを切に願う。

平成20年2月25日

北海道大学大学院文学研究科長
栗生澤 猛 夫